

とまがき

～ 思いやり 心でふれあい 支え合い ～



発行 日野町人権啓発推進連絡協議会
日野町教育委員会事務局内 TEL 52-6566

【発行日】
2026年5月15日

人権研修会

演題：『一人ひとりの居合わせから仕合わせを』

「地域で育む明日のウェルビーイング」を開催しました。

令和8年3月3日（火）、日野公民館において、昨年に引き続き公立大学法人滋賀県立大学地域共生センターの上田洋平さんを講師にお迎えし人権研修会を実施しました。52名の参加がありました。講演の概要は以下のとおりです。



良い偶然を引き寄せる

人生の8割は予想しない偶発的なことによつて決定されます。そうした偶然にただ身を任せるだけでなく、自ら良い偶然を引き寄せる準備が大切です。

次の『5つの行動特性』を持った人には「良い偶然」が起きやすいとされます。

5つの行動特性

- ①「好奇心」絶えず新しい学習の機会を模索し続ける
- ②「持続性」失敗に屈せず、努力し続ける
- ③「楽観性」楽しい機会は必ず実現する、可能になるものとポジティブにとらえる
- ④「柔軟性」こだわりを捨てて、信念、概念、態度、行動を変える
- ⑤「冒険心」結果が不確実であってもリスクを恐れず行動を起す

「これから」「これまで」を決める

過去の出来事、その事実を変えることはできませんが、その「意味」や「価値」は変えることができます。いま・ここから始まるこれからを、明日を、未来をいかに生きるかで「過去は育ちます」。

「いい・やも・ぶ・じ」になる

地域共同体の願いは、この三語に尽きるのではないでしょうか。地域には、風土に根ざし、百年、千年と命をつなぎ、存続してきた「無事の暮らし」ビジネスモデル」があります。しかし、人、土地、むらの空洞化がすすみ、地域共同体の「無事」が「有事」に直面しています。

幸せの4因子

幸福は行動と関係性で育つ4つの要素から高められます。これはまちづくりにも当てはまるのではないのでしょうか？

- ①「やってみよう」因子（自己実現と成長）夢や目標を見つけたら向かって努力したり、成長するとき幸福度は増します。逆に「やらされている感」を持っている人や、やる気がないのに行動している人は幸福度が低いです。

- ②「ありがとう」因子（つながりと感謝）周囲にいる様々な人とのつながりを大切にする人、感謝の気持ちを持っている人や、思いやりのある人は幸せです。逆に、孤独感や孤立は幸福度を下げます。

- ③「なんとかなる」因子（前向きと楽観）どんなことも楽観的に捉えることができ、常にチャレンジ精神を持って取り組んでいる人は幸せです。

- ④「ありのままに」因子（独立と自分らしさ）他人と比較することなく、自分らしく生きていく人は幸福度が高く、人と自分を比べすぎる人は幸福度が低い傾向があります。

斜交場をつくり斜交性を高めよう

親子や家族、あるいは学校など、互いに閉じたタテ・ヨコ列の閉鎖状態の中で関係が暴走・暴発し、悲痛な事件が後を絶たちません。人間同士の「つながりが病んでいる」今、もう一度地域や家族の中に多様な世代の関わり、即ちナナメの関係を取り戻し、ナナメに「斜交性」を入れ、地域社会の「耐震強度」を高める必要があります。地域の中に「よい絆」で結ばれた、安心できる多世代の居場所、すなわち「斜交場」をつくり、一人ひとりが「斜交性」を高めることが大切です。



「幸せの10箇条」

多世代の「斜交場」のワークシヨップとして「人生折れ線グラフ」を紹介いただき、グラフをもとに各グループで一人ひとりの人生について語り合い、幸せになるために大切なことを各班ひとつずつ発表し、10箇条としてまとめ参加者全員で復唱しました。

- 人と出会いが幸せに繋がる
- 健康であること
- 明日は今日よりきつとよくなると信じること
- 感謝すること
- 人を褒めること
- 地域と繋がること
- 周りの人の支えに気づき感謝すること
- やる気が幸福につながるということ
- あきらめないこと
- 失敗はやつてみないと分からないということ

研修後のアンケートでは、「改めて人生を振り返る良い機会だった」、「地域の支えで生活できていることに気づいた」等の感想が寄せられました。

ハートフルひの(日野地区人推協)だよりより
令和7年度人権委員研修会

演題…「すべての人権が守られる災害対策
(避難所運営)」について」を開催されました。



次に防災と人権というテーマで防災士でもある日野公民館長の矢島孝男様から「すべての人の人権が守られる災害対策(避難所運営)」について講演いただきました。お話しいただいた内容は以下のとおりです。

災害時や避難所における様々な問題には人権に対する意識をしつかり反映することが、思いやりのある災害対策となります。プライバシーに関すること、食事に関すること、健康衛生面に関すること、避難所のトイレに関すること、また避難



所における特別な配慮が必要な人に関することは大変重要なことです。災害時における「配慮と支援」を人権尊重の視点から考えることが大切です。また、地域でのつながりを強めることが「災害に強いまちづくり」につながります。

防災士としての経験を生かして丁寧にお話ししていただきました。いつ起こるか分からない、災害に対する心構えを普段からもち、いざというときに隣近所で助け合える、そんな町にしていきたいですね。

その後ビデオ「地震・水害から命を守る 生き抜くための自助・共助」を鑑賞しました。今後の字懇に活用していただきたいビデオです。

最後に野田副会長の挨拶で研修会を終了しました。



7月25日(金)、令和7年度人権委員研修会が日野公民館において開催されました。各地区の人権委員に加えて、区長、町代、福祉協力員、民生委員児童委員も参加いただき、人権委員の役割、字別懇談会(字懇)の取り組み方法などについて研修を行いました。

外池会長の挨拶の後、人権委員の役割及び字懇の取り組みについて小西事務局長から、続いて字懇の取り組み方と補助制度について岩井部会長からそれぞれ説明がありました。

